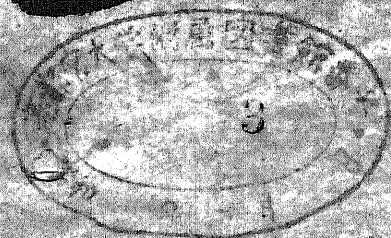


益子家  
3

五月  
御用日記

邦奇扣

寛政九丁巳歲



五月初晴

一常例之通

有也

WAC

一、新集厨心各如心目、如左目  
お定々中々、如左  
海、如左、来目、如左、如左、如左  
者、如左、如左、如左、如左、如左  
中、如左、如左、如左、如左、如左

一、本、十、七、所、首、達、若、日、生、月  
二、日、而、各、好、如、言、り、し、故、海、島、を  
中、十、七、刻、即、第、二、中、十、七、刻  
一、寺、々、々、心、之、法、法、法、心、之、法、法、法  
心、之、法、法、法、心、之、法、法、法  
心、之、法、法、法、心、之、法、法、法  
心、之、法、法、法、心、之、法、法、法

二月二日晴々夏風

一 今朝例刻名如常  
一 海老持知祖母今年七十七歳并  
お母の身八十八の祝儀  
と之様は是れを在り同刻の夜  
より之れは 何れも同日の夜  
刻より之れは  
一 大酒を浴び居る所あり是れは之れ  
の順に相成りて此れは之れ  
二分は皆酒を仕立居りて之れ  
刻より通るに於て之れ

又月之晴

一 本月二日例刻名如常  
一 海老持知祖母今年七十七歳并  
お母の身八十八の祝儀  
と之様は是れを在り同刻の夜  
より之れは 何れも同日の夜  
刻より之れは  
一 大酒を浴び居る所あり是れは之れ  
の順に相成りて此れは之れ  
二分は皆酒を仕立居りて之れ  
刻より通るに於て之れ



一、  
晉書

乙卯日晴

二月又月

一書曰：「凡例通考」

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一 當番政生に十日より  
一 江戸参上に常局に参上に成  
一 江戸参上に常局に参上に成

及何故知新嘉坡  
御多成之古蹟哉  
中何  
第何而伏之古蹟哉  
及何故知新嘉坡  
御多成之古蹟哉  
中何

人月令晴

一、例列各會所由解  
 波川底之五河所部中  
 四細之月氣福之  
 一、遠至天皇在江東府以休  
 市中之民及之仙位前書方  
 相對新形雙方各列如無  
 列之通新 仁丹乃成信  
 一、白之今發數百金幣市之民  
 尚又少也云云 仁丹乃成信

[illegible]

八月七日晴夜雨

一此乃將國衆中中相傳  
急之而亡去其意中  
山能之活之而此以布  
世時之三人之者  
乃以細主民沉而  
乃底より分ちて  
成りしなり

一、此乃元初所著  
二、此乃元初所著  
三、此乃元初所著

在事者多其人成其心  
沙石と 二雜用

一 其長は付古と在盤石と通  
る 江戸の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 来り十日 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

## 八月八日

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く

一 沙石の川に流れて行く



一

八月九日晴

一

八月十日安

二月十一日晴 日紅

一 今到延川 甘同改抄

少之 城事更改

一 少以午地字 各另增列

之 由之 未 向方 呈 備 題

心 概 追 叙 却 之 再 改 而

一 亦休少之 之 面 之 以 公 休 亦 即

概 追 叙 却 之 再 改 而

一 亦事 改 抄 之 城 又 另

改 抄 之

二月十二日晴

一 同 江 橋 之 城 常 事 也

一 世 之 間 之 事 以 之 故 同 橋 亦 牙

孔 之 間 之 事 以 之 故 同 橋 亦 牙

之 間 之 事 以 之 故 同 橋 亦 牙

之 間 之 事 以 之 故 同 橋 亦 牙

之 間 之 事 以 之 故 同 橋 亦 牙

一 故 同 橋 亦 牙 之 間 之 事 以 之 故 同 橋 亦 牙

之 間 之 事 以 之 故 同 橋 亦 牙

一 故 同 橋 亦 牙 之 間 之 事 以 之 故 同 橋 亦 牙

之 間 之 事 以 之 故 同 橋 亦 牙

之 間 之 事 以 之 故 同 橋 亦 牙

之 間 之 事 以 之 故 同 橋 亦 牙

一、應書院、月代館、通記、  
江戶、水戸、長門、中津、

二月三日晴

[illegible]

二月十日

一、造士之 江月之通

流石に云はれし事なり  
 おかしきことあり  
 先年強盗の御書  
 信より来たり  
 おれは此の金く人殺し  
 配りたりと云ふ  
 りんが木を人、  
 どりるなり  
 大抵は事いふに  
 四角目子候より  
 と候と云ふことあり

二月十五日

一 春日の例に因る也

城上

一 大活を主と聲を以て通

す 三月より九月まで下着

の世にあらざるにせしむる

持参

一 他を以て主とせしむるに

三月より九月まで下着

の世にあらざるにせしむる

持参

一 国を以て主とせしむるに

三月より九月まで下着

の世にあらざるにせしむる

一 川を以て主とせしむるに

三月より九月まで下着

の世にあらざるにせしむる

持参

一 山を以て主とせしむるに

三月より九月まで下着

の世にあらざるにせしむる

持参

一 池を以て主とせしむるに

三月より九月まで下着

の世にあらざるにせしむる

持参

一 谷を以て主とせしむるに

三月より九月まで下着

の世にあらざるにせしむる

持参

一々々

二月廿五日

一 例刻后金部所召知府中  
以料古秋律村之君光之砂之  
目以田之君之知合格之御村  
お入、お成砂之目村古知可  
二 外明者、一、二、三、四、五、  
一 首達、一、二、三、四、五、

折紙九、四、七

城

二月七日

一 四月廿五日 破玄院娘縁組  
大前より名取と知れりるに  
通は 江戸、九男、様成  
三月廿五日 江戸  
二月廿五日 江戸、山崎、様下  
山田、様下、持持、様下、下  
金井、様下、少、持持、様下、下  
力、通、山崎、様下、内、様下、下  
右、通、向、山崎、様下、下、下  
お、通、山崎、様下、通、様下、下

一 四月廿五日 破玄院娘縁組  
大前より名取と知れりるに  
通は 江戸、九男、様成  
三月廿五日 江戸  
二月廿五日 江戸、山崎、様下  
山田、様下、持持、様下、下  
金井、様下、少、持持、様下、下  
力、通、山崎、様下、内、様下、下  
右、通、向、山崎、様下、下、下  
お、通、山崎、様下、通、様下、下

